

013	From Editor
015	表紙の時計／ウブロ、ビッグ・バン・フェラーリ
017	Editor's Choice!
024	ボヴェエ、ナインティサティーン・ディエミアスプレイリミテッド・エディション／IWC、ダウインチ・パーペチュアル・カレンダー・クロノグラフ／オーデマピゲ、ロイヤル・オーク・クロノグラフ／ユリス・ナルダン、マリオン・トゥールビヨン／バルミジャーニ・フルリエ、トリック・クロノメーター／ジラルド・ペルゴ、ロレアート／ピアジェ、アルティプラン
024	世界は時計で回っている。
026	シヨール、LUCフルストライク
028	時が熟して、遂に完成したミニット・リピーター
030	HYT、H2トラディション
030	先端科学技術から生まれた現代の水時計
032	パルミジャーニ・フルリエ、トнда・クロノール・アニヴェルセル
036	満を持して誕生した自社開発のクロノグラフ
040	ルイ・ヴィトン2017年新作ウォッチ、ダンブルムーン & エスカルブルー
041	既存コレクションにひとひねり加えた新作
041	ヴァシロン・コンスタンタン、オーヴァーシーズ、マルタ & ゲド・リル
041	2017年前半にレギュラー・コレクションに加わった新作
041	ユリス・ナルダン、クラシコ・マニユファクチュール・アワーグラス・ジャパン創業20周年記念モデル
041	魅力的な表情のスペシャル・エディション
041	〔特集〕2017年新作情報〈バーゼル編〉

裾野の広がりを期待した戦略的新作の競演

045-085...バーゼルワールド／086-091...アトリエ／092-095...バーゼルワールド会場外の展示／097-101...その他

バーゼルワールド2017は3月23日から30日にかけてスイス・バーゼルのメッセ会場で開催された。今年にはバーゼルでのフェア開催から100周年目の記念すべき年でもあった。不景気に立ち向かうためにさまざまな対策を練るスイス・ブランド、GPS電波時計の技術で独自性を出す日本メーカー。各社がバーゼルで発表した新製品を紹介するとともに、今年の傾向を分析してみた。

- 102 時計ジャーナリスト瀧澤 広の「マイ・チヨイス」 第21回クォーツ天空ウォッチ
シチズン「カンパノラ」コスモサイン星座盤モデル[◇] & 「同月齢盤モデル」[◇]
- 104 カシオ「GPRW2000」 & 「PCWG2000C」[◇]
3つの時刻取得システムを搭載する新世代モジュールの誕生
- 105 「セイコーアストロン」ジウジアーロデザイン2017限定モデル[◇]
機能の追求から生まれた秀逸なデザイン
- 106 ロジェ・デュブイ「エクスカリバー」スパイダーイタル・デザインエディション[◇]
ロジェ・デュブイがイタル・デザインとパートナーシップを締結
- 108 新製品情報
- 112 シチズン・オーナーズクラブ
顧客サービスを支えるシチズン時計マニファクチャリング飯田殿岡工場
- 114 オーデマピゲブティック大阪
大阪心斎橋にオープンした世界最大級のブティック
- 116 ギンザシックスにお目見えした時計ブティック7店舗
銀座最大級の館から発信する時のメッセージ
- 120 リシャール・ミルライフスタイルラボラトリー
多面的に世界観を伝える空間が誕生
- 120 ドンペリニオン P2Xザ・ひらまつ ホテル&リザーツ
非日常の時の流れを楽しむ
- 121 「ゼニスブティック大阪」グランドオープン
大阪・心斎橋にゼニスの国内ブティック2号店がオープン
- 122-128 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

ルイ・ヴィトン2017年新作ウォッチ「タンブルムーン」 & 「エスカルブルー」

既存コレクションにひとひねり加えた新作

ルイ・ヴィトンは昨年、バーゼルワールドでの新作発表を中止したが、今年は各国で新作のプレゼンテーションを行った。タンブルには新型ケースが登場し、カラフルな「エスカル」にブルーのモントーンのモデルが加わるなど、既存コレクションが幅を広げた。



「タンブルムーン GMT ブラック」。直径41.50mm、厚さ9.93mmのステンレススチール・ケースに自動巻きのETA Cal.2893(毎時2万8800振動、21石、パワーリザーブ約42時間)を搭載する。文字盤の中央にはルイ・ヴィトンのダミエ・キャンパスに着想を得たパターンが施される。黄色のVが文字盤内周にある24時間表示の第2時間帯の時刻を指す。5気圧防水。価格64万5840円。7月発売予定。

ルイ・ヴィトンが「タンブル」の発表とともに本格的に時計分野に進出したのは2002年のことだった。今年はそのから15周年を迎える。フランス語で「ドラム」を意味する「タンブル」はその名のとおり太鼓のような円筒形のフォルムで、一般的なラウンド・ウォッチとは趣を異にしており、新鮮な印象を与えた。

また16世紀に作られた初期の携帯時計をも思わせた。こうしてスタートしたルイ・ヴィトン・ウォッチの15年間の発展は目覚ましい。2011年には複雑機構のムーブメント開発・製造を行うラ・ファブリック・デュ・デュー・タンを、その翌年には文字盤工房のレマン・カドランを傘下に置き、2014年10月にはジュネーブ郊外のメイランに自社工房「ラ・ファブリック・デュ・タンルイ・ヴィトン」を創設した。そして2016年1月にはジュネーブ・シールを取得した「フライングトゥールビヨンジュネーブシール」を発表するまでに至ったのだから、これまでの歩みの勢いは見事と言えるだろう。

勢いに乗って迎えた15年目にタンブルにバリエーションが加わった。「タンブルムーン」と名付けられ、既存のタンブルのケースが寸胴であるのに対して、ケース・サイドが緩やかにくびれたシェイプが特徴だ。ルイ・ヴィトンはこのケースにフライングトゥールビヨン装備のムーブメントを搭載したジュネーブ・シール取得モデルの第2弾を発表した。輪列が縦一列に直線上に並んだムーブメントの香箱にはLOUIS VUITTONの文字を刻み、6時位置のトゥールビヨン・キャリッジはモノグラム・フラワーを模った。またセンター・ブリッジの9時位置側にはジュネーブ・シール取得を示すジュネーブの紋章が刻まれる。このモデルでは自分のイニシャルを刻んだパーツをつけたブリッジを加えるなどのパーソナライゼーションが可能だ。

このほかタンブルムーンにはステンレススチール・ケースあるいはステンレススチールと18KピンクゴールドのコンビネーションのGMTモデル、ステンレススチール・ケースの自動巻きクロノグラフが揃う。またクォーツ・ムーブメントを搭載したレディースの「タンブルムーンスター」コレクションも加わり、すべて7月に発売が予定される。

BELL & ROSS

ベル & ロス

〒040-0001 青森県青森市大森 03-5977-7759

ミリタリーからF1まで、広範な新作で勢いを表現

ベル&ロスは昨年2月にルノー スポールF1チームの公式タイムキーパーに就任し、モータースポーツの世界に踊り出た。新作ではF1カー“ルノーRS17”に着想を得たカラーリングが特徴の3モデルを発表。またダイバーズ・ウォッチやツールビヨンで新たな開発を披露して、勢いを感じさせた。その一方で原点に立ち返り、創業当初のラウンド・モデルの見直しも行われた。こうして「軍用時計のように視認性に優れた実用的な時計」という基本精神を柱に、ラウンドとスクエアというふたつのケースのフォルムのなかでムーブメント、デザイン、素材を模索しながら、確実な発展を目指した地道な努力が続けられている。



BR 03-92 ダイバー

ベル&ロスのダイバーズ・ウォッチに初めてのスクエア・ケースが加わった。潜水用時計の国際規格であるISO6425に準拠して開発されたもので、逆回転防止ベゼルを備え、インデックスと分針にはホワイト、時針にはオレンジのスーパーラミノバを塗布する。ケースは1辺が42mmのSS製で、リュウズガードと厚さ2.85mmのサファイアクリスタルの風防を備える。自動巻きのBR-CAL.302(ETA Cal.2892-A2ベース。21石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約40時間)を搭載。300m防水。ラバーとシンセティックファブリックの2本のストラップを付属する。価格48万6000円。今夏発売予定。



BR X2 ツールビヨン マイクロローター

ベル&ロスでは初めての自動巻きのツールビヨン・モデルが登場した。ムーブメントはMHC社が開発した、6時位置にフライング・ツールビヨンを装備するマイクロローター式自動巻きのBR-CAL.380(34石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約50時間)を採用する。このムーブメントは1辺が36mmのスクエアで、周囲を1辺42.5mmのステンレススチール製のフレームで囲み、上下にサファイアクリスタルをセットしている。フレームがケースを兼ねる新しい構造で、BR X2という専用のシリーズ名が付けられた。5気圧防水。予価851万3200円。今夏発売予定。



BR V1-92 ブラック スティール

ベル&ロスの草創期に、軍用時計に着想を得てデザインしたモデルの見直しが行われた。ケース径は従来よりも小ぶりの38.5mmで、ドーム型のサファイアクリスタルを採用してヴィンテージ感を出すとともにケースの厚さが抑えられた。インデックスと針のホワイトのスーパーラミノバと文字盤のブラックの対比は視認性に優れており、この点もベル&ロスが時計作りの基本とするひとつといえる。秒針には飛行機のモチーフのカウンターウェイトが初めて登場した。自動巻きのBR-AL.302(ETA Cal.2892-A2ベース。21石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約40時間)を搭載する。予価28万6200円。今秋発売予定。



BR V2-92 ブラック スティール

ベル&ロスが創業当初に発表したラウンド・ケースのモデルは今日、“ヴィンテージ”と呼ばれるが、今年はデザインを見直した新世代バージョンが登場した。BR V2-92は自動巻きの三針モデルで、ケース径を2mm小さい41mmに変更し、厚みも2mm薄くなった。またリュウズガードが加わり、分目盛を記したベゼルは固定式から回転式に変更された。サテンとポリッシュ仕上げを組み合わせたブレスレットも新型を採用。ムーブメントは自動巻きのBR-CAL.302(ETA Cal.2892-A2ベース。21石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約40時間)を搭載する。予価42万1200円。今秋発売予定。



BR 03-94 RS17

このモデルはバーゼルワールドに先駆けた2月、ルノーRS17の発表に合わせてロンドンでお披露目された。クロノグラフのプッシュボタンとクロノグラフ秒針、30分積算計、そしてタキメーターの一部に施されたイエローは、ルノーが1977年に初めてF1に参戦して以来のシンボル・カラーだ。軽さと耐久性を考慮して、ケースにはマットブラックのセラミックス、文字盤にカーボンファイバーが採用された。ムーブメントはBR-Cal.301(ETA Cal.2894-2ベース。37石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約42時間)を搭載する。ケース・サイズ42mm×42mm。10気圧防水。価格81万円。限定500個。発売中。



BR-X1 RS17

右のモデルと同様に文字盤に施したイエロー、グリーン、レッド、ブルーなどのカラーリングでルノーRS17のステアリングを表現する。2014年に発表したBR-X1スケルトン クロノグラフのバリエーションで、ムーブメントはデュボア・デプラ製の自動巻きDD2162がベースのBR-Cal.313(56石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約40時間)を搭載する。文字盤はグレーのサファイアクリスタル製。1辺が45mmのケースも右と同じくフォードカーボンとセラミックスのコンビネーションでラバーのインサートが付く。10気圧防水。価格318万6000円。限定250個。発売中。



BR-X1 ツールビヨン RS17

ルノースポールF1チームとのコラボレーション・モデルの最高機種で、ルノーRS17のステアリング・ホイールから着想を得たカラーリングが特徴だ。昨年発表した“BR-X1 ツールビヨン”のバリエーションで、MHCが開発したフライング・ツールビヨン装備のシングルプッシュ・ボタン式手巻きクロノグラフのBR-CAL.283(35石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約4日間)を搭載する。文字盤はグレーのサファイアクリスタル製。1辺が45mmのケースはフォードカーボンとセラミックスのコンビネーションでラバーのインサートが付く。10気圧防水。価格2214万円。限定20個。発売中。

時計ジャーナリスト 瀧澤広の『マイ・チヨイス』—第21回クォーツ天空ウォッチ

シチズン『カンパノラ・コスモサイン』星座盤モデル & 『同月齢盤モデル』

シチズンは1987年からクォーツ天空ウォッチの『コスモサイン』を市場に送り出してきた。昨年には『カンパノラ』にふたつのモデルが登場した。天空を忠実に再現した文字盤がリアルに星の動きを表現する、なんとも楽しい時計に心が躍る。

文／瀧澤広 写真／宮坂正邦(WPP)／熊谷義久



カンパノラ・コスモサイン月齢盤モデルの先代にあたるアストロデア。シチズン・ミュージアム所蔵

機械式時計の素晴らしさや楽しさは、ちっぽけな歯車やバネの組み合わせからなるパワー・トレインが、コチコチと健気なまでに時を刻んでくれることだと思う。さらに、この仕組みを高度なまでに発展させた一連のコンプリケーション・ウォッチには、時として感動を覚えてしまうことがある。たとえば、永久カレンダーやリピーターと言った機械式時計がそうであるように、緻密な計算から割り出された各々の精密なギアは繊細なまで

の噛み合わせがなされており、さらに、その微妙な作動を繰り返す機械を見事に造り上げてしまった技術力は、まさに尊敬に値する。

これと多少「性格」が異なるのがクォーツ・ウォッチである。持ち前の精度の高さに加えて、アラームやクロノグラフなどの機構を同時に備えた多機能モデルは確かに素晴らしいと思うものの、どこか電気仕掛けの味気なさを覚えてしまうのは筆者だけではないだろう。従って、

リピーター機構を備えたクォーツ・ウォッチを腕に着けたときに感じられるのは単に音で時刻を知らせてくれる利便性の高さであり、機械式時計のような楽しさや素晴らしさはあまり伝わって来ない。こうした両者の違いは、間違いなく「健気」に動いてくれる機械に由来したものだと思われる。

しかし、ものごとに例外はつきものである。たとえば、星座の動きを文字盤上に表したセレスティアル・ウォッチが良い例だ。通常、この種の機構を備えた機械式時計は日に1度だけ、内蔵した星座盤を動かすことが多い。むしろ、その理由はメイン・バレルの限られたトルクを無暗に消費しないためであり、同様に一般的なムーンフェイズ機構もこれと同様に、24時間に1ノッチだけ進む仕組みが採用される。

こうした些細な欠点を見事にカバーしてくれるのが、クォーツを原動力に使用したカンパノラ・コスモサインである。そ

の素晴らしさは常時噛み合い式のギア・トレインを内蔵するにより、恒星を描いたスカイチャートが24時間に亘ってリアルタイムで表示してくれることだ。

コスモサイン星座盤モデル

文字盤いっぱい星や星座が描かれているのがカンパノラ・コスモサインの星座盤モデルで、大型のケースを特徴とする同シリーズに登場したのは2001年のことだ。しかし、このスカイチャート・モデル自体の歴史は古く、丸型ケースの初代コスモサインがデビューしたのは1987年12月であった。

その後、使用されていたクォーツ・ムーブメントは基本的に変わらないものの、この30年間で繰り返しブラッシュアップが図られ、星座数や恒星数の拡大や、表示の色分けといった視認性の向上など様々な改良が施された。さらに近年では透過率99%のクラリティ・コーティング

シチズン オーナーズクラブ

顧客サービスを支えるシチズン時計マニユファクチャリング飯田殿岡工場

シチズンには上級機種購入者には上質なアフターサービスを提供するシチズンオーナーズクラブがある。登録をすれば最大10年間にわたって、無償で点検や修理を受けることができる、ユーザーにはあり難いサービスだ。このサービスを支えるシチズン飯田殿岡工場を訪れた。



飯田殿岡工場ではシチズンの機械式ムーブメントや“エコ・ドライブワン”に搭載する極薄のクォーツ・ムーブメントの組立、そして上級ラインの完成品組立が行われる。その一画に設けられたのがオーバーホールや修理を行うシチズン テクニカルサービスセンターで、7名の女性特長技能者が在籍する。飯田殿岡工場全体では600人以上が働くが、そのうちの6割は女性が占める。

ためにはクラブ専用のサイトで登録することが必要だが、登録すれば定期点検や自然故障の場合の修理を無償で受けることができる。保証期間は「ザ・シチズン」と「エコ・ドライブワン」限定モデルでは10年間、その他では3年となっている。

オーナーズクラブを支えているのが飯田殿岡工場だ。ここは1945年に現在のシチズン時計の前身である大日本時計が飯田に疎開したことに始まる時計工場だ。第2次世界大戦が終わり、1949年には平和時計製作所と名称も改められた。2003年にシチズン時計の完全子会社となり、2005年にはシチズン平和時計と社名を変更、さらに2013年にはシチズン時計マニユファクチャリング(株)として新たなスタートを切ったのだ。これはシチズンが傘下にあった国内の5つの主要製造会社とシチズン本体の製造関連部門を統合し、製造部門の一本化を図ったことによ

る。こうしてさまざまな変遷を経てきた飯田殿岡工場だが、現在はシチズンマニユファクチャリングの一員として、シチズンの上級機種の組立を担う。

そしてここには、シチズンテクニカルサービスセンターが設けられている。オーナーズクラブのメンバーたちの時計の点検や修理がこのセンターの仕事で、7名の女性時計士たちが作業台に向かっている。表舞台に出ることはない彼女たちだが、シチズン時計のサービスを支える非常に重要な存在だ。

ところで今年4月からシチズンはオーナーズクラブのメンバーに向けてケースの研磨修理サービスも開始した。研磨は東北北上工場で行われ、費用は2万円から3万円と設定される。

さてオーナーズクラブのサービスの詳細については、実際に「ザ・シチズン」の自動巻きモデルの2回の定期点検を経験した時計ジャーナリストの瀧澤広氏にレポートしていただいた。(T・K)

CITIZEN

Owner's Card

“シチズン オーナーズクラブ”のメンバーズ・カード。過去にはハガキでの登録だったが、今日では専用ウェブ・サイトに切り替えられた。クラブに登録することで、“ザ・シチズン”の場合、10年間に機械式は3回、エコ・ドライブは2回、クォーツの場合は電池寿命に合わせてレディース・モデルで3回、メンズで2回の定期点検、そして自然故障であれば無償で修理を受けることができる。

1995年、「ザ・シチズン」の発売とともにシチズンは顧客サービスとして10年保証制度を開始した。これが2014年8月にスタートした「シチズンオーナーズクラブ」の基礎となった。現在では「ザ・シチズン」、「カンパノラ」、「エコ・ドライブワン」、そして「シリーズエイト」でオーナーズクラブの特典が適用される。サービスを受け

CITIZEN FLAGSHIP STORE TOKYO

銀座最大級の館から発信する、時のメッセージ



入口を入るとシチズンの各ブランドの時計を展示したショーケースが並ぶ。最新の超薄型クォーツの「エコ・ドライブ ワン」をはじめ、主要モデルが揃う。



「シチズン フラグシップストア」。入口は三原通り側にある。
☎03-6263-9987 ◎10:30～20:30 (修理工房のみ10:30～19:30)。



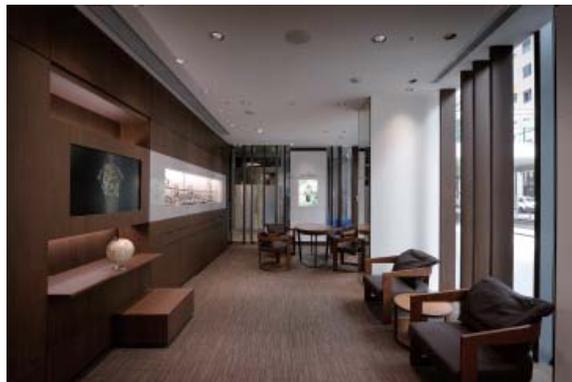
昨年にシチズン ウォッチ グループの一員となったフレデリック・コンスタント、そして日本での扱いが中止されていたアルピナの販売も行われる。



2000年にデビューしたシチズンの「カンパノラ」のコーナーには、「コスモサイン」やクォーツの超複雑時計が並ぶ。隣はプロバのコーナー。



店内の奥には時計修理工房が設置された。時計修理技術士が常駐し、各ブランドの修理の相談に応じ、また電池交換やストラップの調整なども行う。



世界で初めてのアーノルド & サンの特ティックもストアの一面にオープンした。いままで日本に未入荷だった希少な時計も展示される予定だ。

その結果のひとつがこの店舗だ。およそ300㎡の店内にはシチズンが国内最大規模のコレクションを揃え、グループの各ブランドがコーナーを設けた。特にアーノルド & サンは店内に世界で初めての特ティックを構えた。ダークウッドの落ち着いた空間で、高級感が表現される。

シチズンウォッチグループもそのひとつで、同グループのブランドが一同に会す、という世界初のフラッグシップストアだ。シチズンは2008年にアメリカの時計ブランドのプロバを、2012年にはスイスのプロサーホールディングスを傘下に入れた。プロサーホールディングスにはムーブメント・メーカーのラ・ジュウ・ペレ、時計ブランドのアーノルド & サンとアンジュラスを擁している。そして昨年にはフレデリック・コンスタントグループの株式を取得し、グローバル戦略を強化してきた。

シチズンフラッグシップストア東京
4月20日に東京・銀座にオープンしたギンザシックスは、地下2階から地上6階までに241店舗が入る大規模ショッピング・ビルだが、そのなかには7つの時計専門店も含まれる。